

決算説明会

2020年11月
株式会社タダノ

TADANO LTD.

2020年度中間決算と通期業績予想

- **2020年度中間期**
2010年度中間期以来の赤字
- **2020年度通期**
過去最大の赤字見込み

2020年10月8日

欧州子会社 TDG・TFG 事業再生手続き申請

※ TFG: Tadano Faun GmbH, TDG: Tadarano Demag GmbH

2

二つの闘い

➤ 目の前の闘い

➤ 時代との闘い

3

- コロナ禍での需要減
- 逆オイルショックの影響
- 欧州事業の苦戦

4

コロナ禍影響(需要)

【地域別需要（対前年同期比）】

地 域	2020年			
	1月-3月	4月-6月	7月-9月	10月-12月
日 本	-7%	-24%	-39%	
中 東	-12%	-28%	-42%	
北 米	-16%	-47%	-47%	
欧 州	-9%	-23%	-7%	
中南米	-15%	-34%	-44%	
アジア	-1%	-26%	-43%	
その他	-16%	+5%	-22%	

第1四半期
 第2四半期
 第3四半期

5

【地域別の足許の状況】

地域	足許の状況
日本	クレーン稼働率は戻りつつあるものの、先行き不透明感から設備投資意欲の回復まで至っていない。
米国	感染拡大は継続。大統領選後の今後の経済政策の見極めが必要なことから当面様子見続く。
欧州	欧州第2波深刻、一部欧州諸国ではロックダウンもあり、クレーン需要への影響が懸念される。
アジア	各国の感染拡大防止措置が継続する中、当面市況好転は見込み難い状況。
その他	オーストラリア：経済対策としてのインフラプロジェクトもあり需要堅調。 中東：原油価格低迷継続により需要回復期待しづらい。

逆オイルショック

- OPECプラス合意決裂＋コロナ禍
⇒原油価格暴落 → その後、減産合意
→ 現時点、30ドル台後半で推移
- クレーン市場への影響
⇒アップストリームへの影響大
ダウンストリームへの影響限定的(様子見)
- 脱化石燃料の加速
⇒風力などクリーンエネルギー関連需要増

コロナ禍は最悪、2021年度末まで続く

※コロナ終息1年＋景気回復1年



＜タダノの基本方針＞
最悪を想定し、最善を尽くす

8

コロナ禍長期化への備え

【資金及び資金枠 530億円を確保】

- ・短期借入 : 150億円
- ・社債発行 : 100億円
- ・コミットメントライン枠追加 : 280億円

現状以上の厳しさが2021年度末まで長期化しても
十分な資金を確保済み

9

2019年度まで3期連続赤字

⇒ 超大型AT新規開発に工数取られ、
サプライヤ品質問題重なり、
原価率・品質悪化

※ TFG: Tadano Faun GmbH、AT: オールテレーンクレーン

10

買収したDemag事業(TDG)は赤字体質

- ⇒ 必要なモデルチェンジが遅れ、
売上低下を招いた
- ⇒ アフターサービスが弱く、
値下げ販売せざるを得なかった
- ⇒ 低い生産効率、高い固定費比率

※ TDG: Tadano Demag GmbH

11

➤TDGとTFGの統合活動

- ・組織:ホールディング会社設立、HQ機能統合
- ・開発:製品統合に向けた共同開発
- ・購買:共同購買によるスケールメリット追求(原価低減活動)
- ・生産:工場間の生産分担
- ・販売:タダノGとしての販売体制再構築
- ・CS :タダノGとしてのCS体制再構築(サービス・部品)

※ TFG: Tadano Faun GmbH, TDG: Tadano Demag GmbH

12

欧州子会社2社 事業再生手続き

- 人員削減・時短勤務等の固定費削減に取り組むもコロナ禍で黒字化に向けた計画に大きな遅れ事業再生手続きの決断に至る
- 再建計画策定・提出(12月末予定)
現地裁判所の最終承認(3月末予定)
- 欧州(AT・CC)事業は、タダノGの中核事業
- 当該2社の黒字化促進が、タダノG全体の長期目標達成、企業価値の向上につながる

※ AT:オールテレーンクレーン、CC:クローラクレーン

13

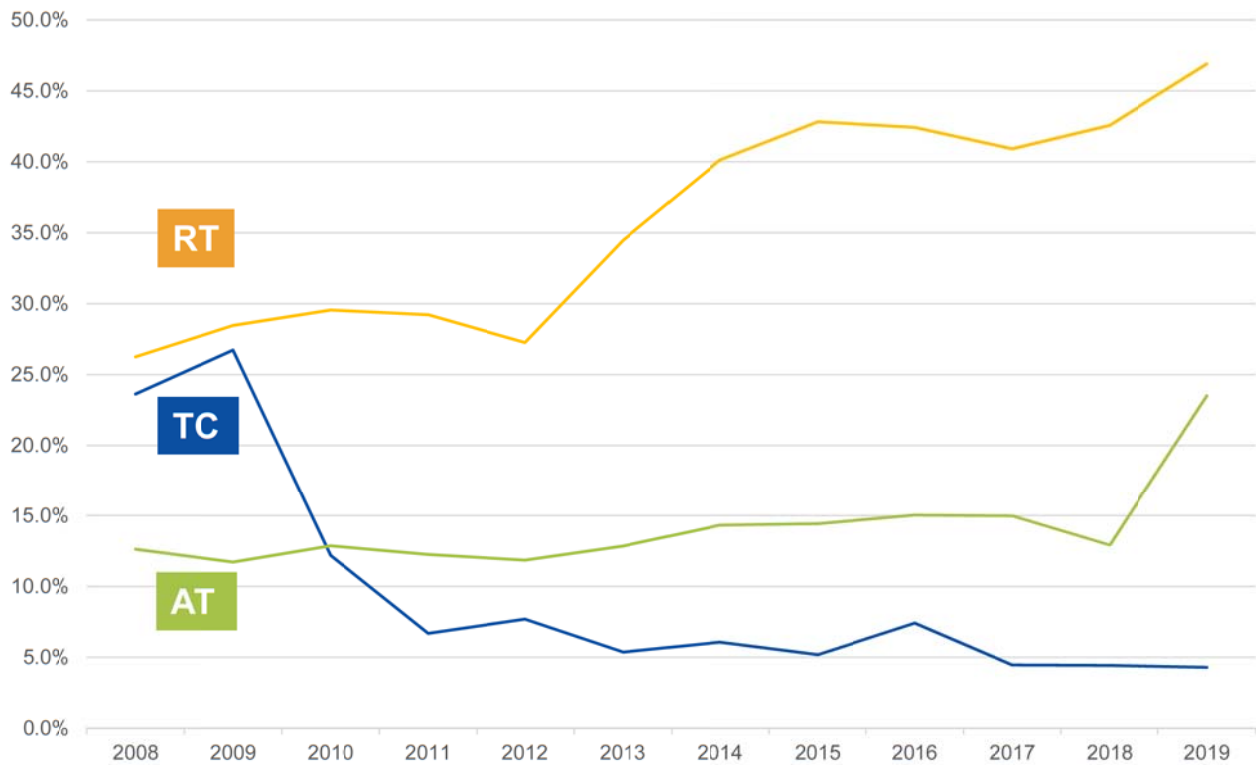
➤ 市場構造の変化への対応

➤ 新技術への取組み

日本市場は
人口動態から長期的に縮小方向

⇒ マザーマーケットとして維持しながら、
グローバル展開強化

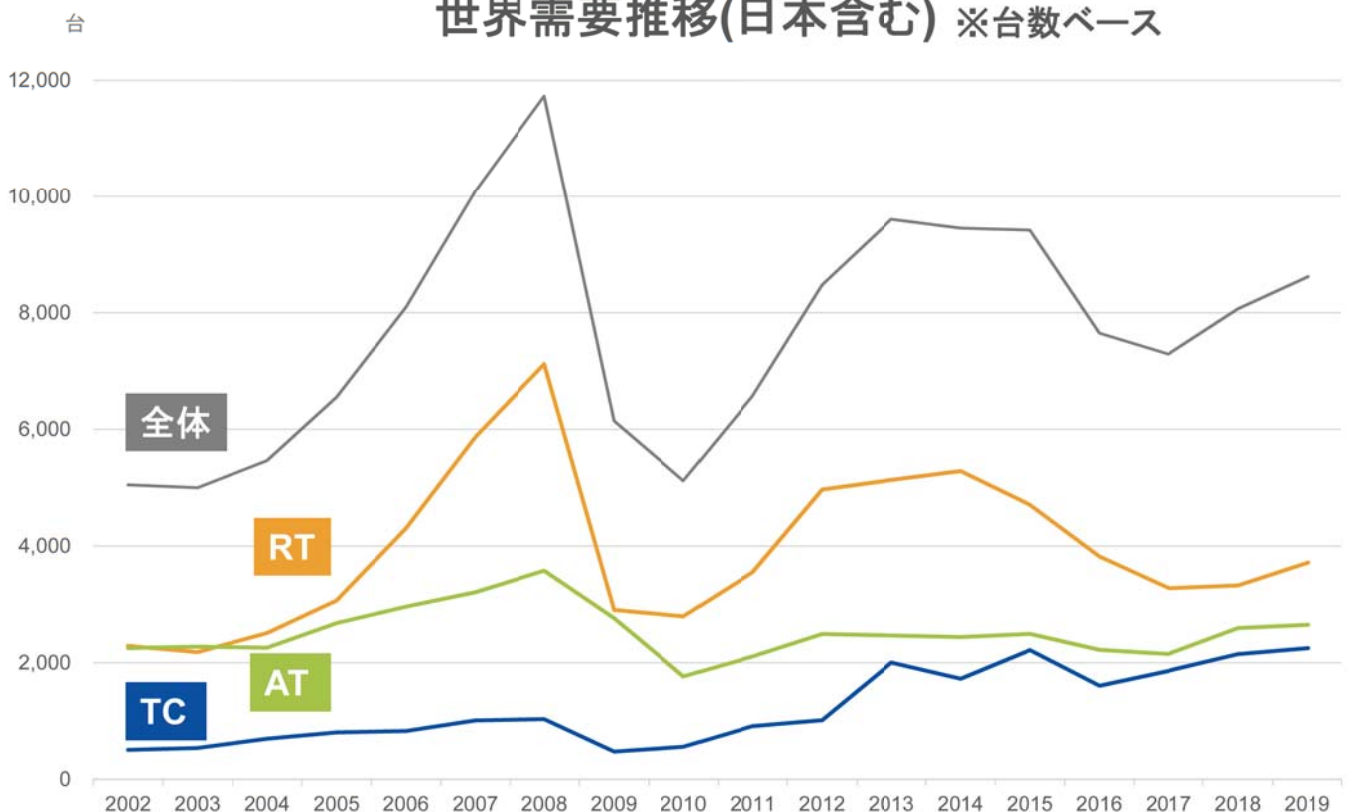
タダノ世界シェア(日本含む) ※台数ベース



※ RT:ラフテレーンクレーン、AT:オールテレーンクレーン、TC:トラッククレーン

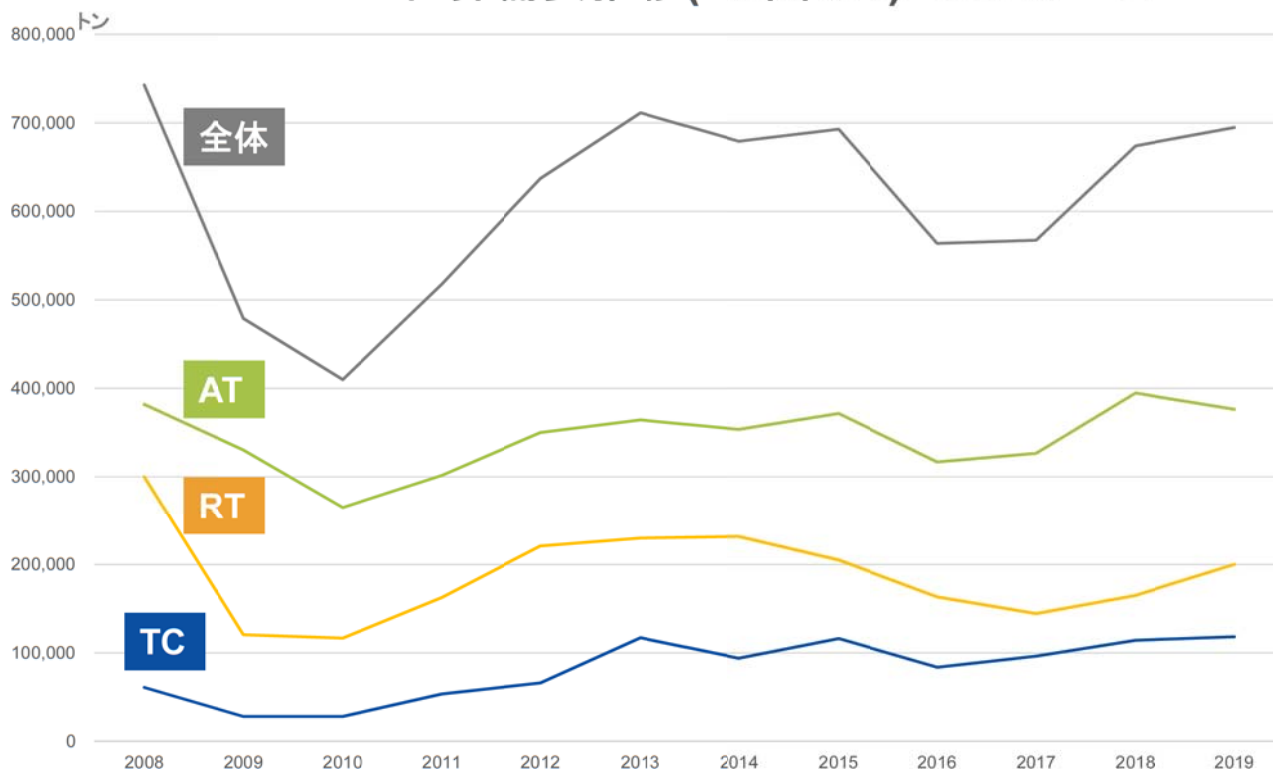
建設用クレーン市場の構造変化

世界需要推移(日本含む) ※台数ベース



※ RT:ラフテレーンクレーン、AT:オールテレーンクレーン、TC:トラッククレーン

世界需要推移(日本含む) ※トン数ベース



※ RT:ラフテレーンクレーン、AT:オールテレーンクレーン、TC:トラッククレーン

18

クレーン市場の構造変化への対応

➤ AT強化 ⇒ Demag事業買収

➤ RTシェアアップ ⇒ 香西工場建設

※ RT:ラフテレーンクレーン、AT:オールテレーンクレーン、TC:トラッククレーン

19

➤ TC中国勢対抗策

⇒ インド合併事業 (TEI)

・インド国内向け

・インドからの輸出

⇒ Crafted in Japan

※ TC:トラッククレーン、TEI:Tadano Escorts India Pve.Ltd.

20

新技術への取組み

➤ 自動化

➤ 電動化

➤ 新機能・新素材

etc...

21

2020年度 中間決算の概要

22

決算のポイント

- ✓ Demag事業連結により売上は約9%減に留まるも、製品構成の変化により、利益は大幅減少。10年度中間期以来10年ぶりの営業損失

(単位：百万円)

	19年度中間期		20年度中間期		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	100,304	100%	91,106	100%	-9.2%
営業利益	7,573	7.6%	-1,038	-1.1%	-
経常利益	7,262	7.2%	-1,590	-1.7%	-
親会社株主当期純利益	5,267	5.3%	-2,566	-2.8%	-
設備投資額		9,852		3,242	
減価償却費		1,588		2,457	
※設備投資にはリース資産分を含んでおります。					
USD		110.05円		108.27円	
EUR		124.32円		119.30円	

- ✓ Demag製品を中心とした構成の変化等により原価率は悪化
- ✓ 経費削減に努めるも、Demag事業連結により販管費は増加

(単位：百万円)

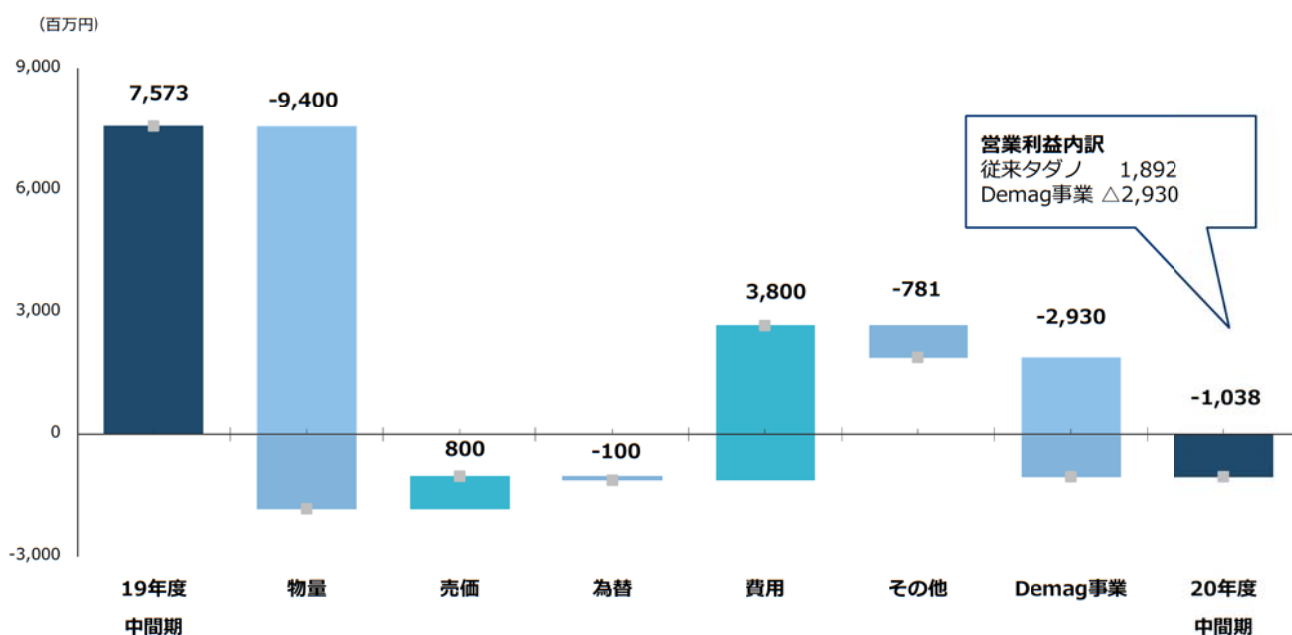
	19年度中間期		20年度中間期		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	100,304	100%	91,106	100%	-9,198
売上原価	74,195	74.0%	72,805	79.9%	-1,390
割賦販売利益	-56	-0.1%	32	0.0%	89
売上総利益	26,051	26.0%	18,332	20.1%	-7,718
販管費	18,478	18.4%	19,370	21.3%	892
営業利益	7,573	7.6%	-1,038	-1.1%	-8,611
営業外損益	-310	-0.3%	-552	-0.6%	-241
経常利益	7,262	7.2%	-1,590	-1.7%	-8,853
特別損益	679	0.7%	85	0.1%	-594
税引前当期純利益	7,942	7.9%	-1,504	-1.7%	-9,447
法人税等	2,684	2.7%	1,051	1.2%	-1,633
非支配株主当期純利益	-9	-0.0%	10	0.0%	19
親会社株主当期純利益	5,267	5.3%	-2,566	-2.8%	-7,834

2020年度中間決算 決算説明資料(P3より引用)

24

営業利益増減要因

- ✓ 費用は削減するも、物量の減少、Demag事業連結により86億円減少



2020年度中間決算 決算説明資料(P4より引用)

25

- ✓ 売上債権は減少
- ✓ たな卸資産は増加(1,026億円のうち、TFG170億円、TDG266億円)

(単位：百万円)

	19年度末	20年度 中間期末	比較 増減		19年度末	20年度 中間期末	比較 増減
手許資金	57,075	73,051	15,975	仕入債務	40,745	24,822	-15,923
売上債権	63,267	44,257	-19,009	有利子負債	63,035	85,627	22,591
たな卸資産	97,434	102,619	5,185	その他	49,320	44,393	-4,926
その他	9,415	4,239	-5,175	負債計	153,102	154,843	1,741
流動資産計	227,192	224,168	-3,024	純資産計	158,158	152,897	-5,260
有形固定資産	68,433	68,534	100	負債・純資産計	311,260	307,741	-3,519
無形固定資産	1,675	1,647	-27				
投資その他の資産	13,958	13,390	-568				
固定資産計	84,067	83,573	-494				
資産合計	311,260	307,741	-3,519				

	19年度 中間期	19年度	20年度 中間期
売上債権回転期間	83.2日	88.1日	88.9日
たな卸資産回転期間	125.1日	135.6日	206.1日
自己資本比率	48.8%	50.5%	49.3%

製品別売上高

- ✓ その他を除き、全製品セグメントにて減少

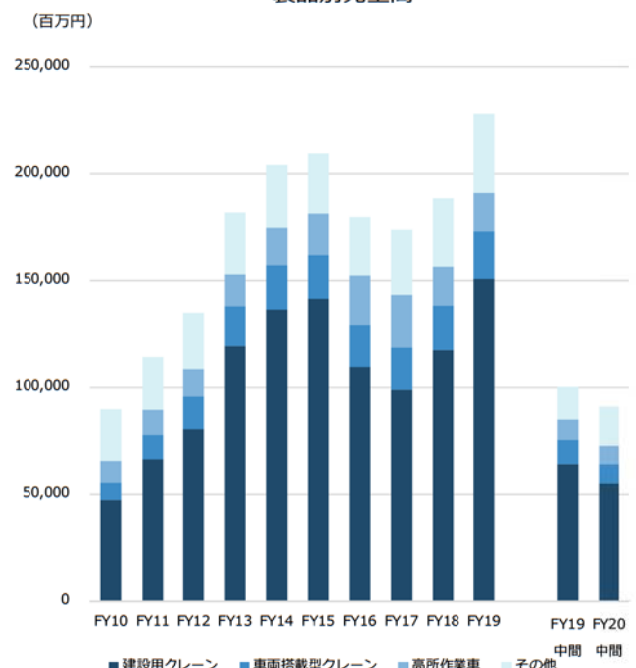
(単位：百万円)

	19年度 中間期	20年度 中間期	比較増減 金額	増減率
建設用クレーン	64,199	55,106	-9,092	-14.2%
車両搭載型クレーン	11,265	9,099	-2,165	-19.2%
高所作業車	9,507	8,493	-1,014	-10.7%
その他	15,332	18,406	3,074	20.1%
合計	100,304	91,106	-9,198	-9.2%

建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高				
	19年度 中間期	20年度 中間期	比較増減 金額	増減率
日本	24,984	18,122	-6,862	-27.5%
海外	39,214	36,984	-2,230	-5.7%
合計	64,199	55,106	-9,092	-14.2%

為替レート ※1-6月期中平均レート (海外子会社は12月決算のため)				
	19年度 中間期	20年度 中間期		
USD	110.05	108.27		
EUR	124.32	119.30		

製品別売上高



2020年度 通期業績予想の概要

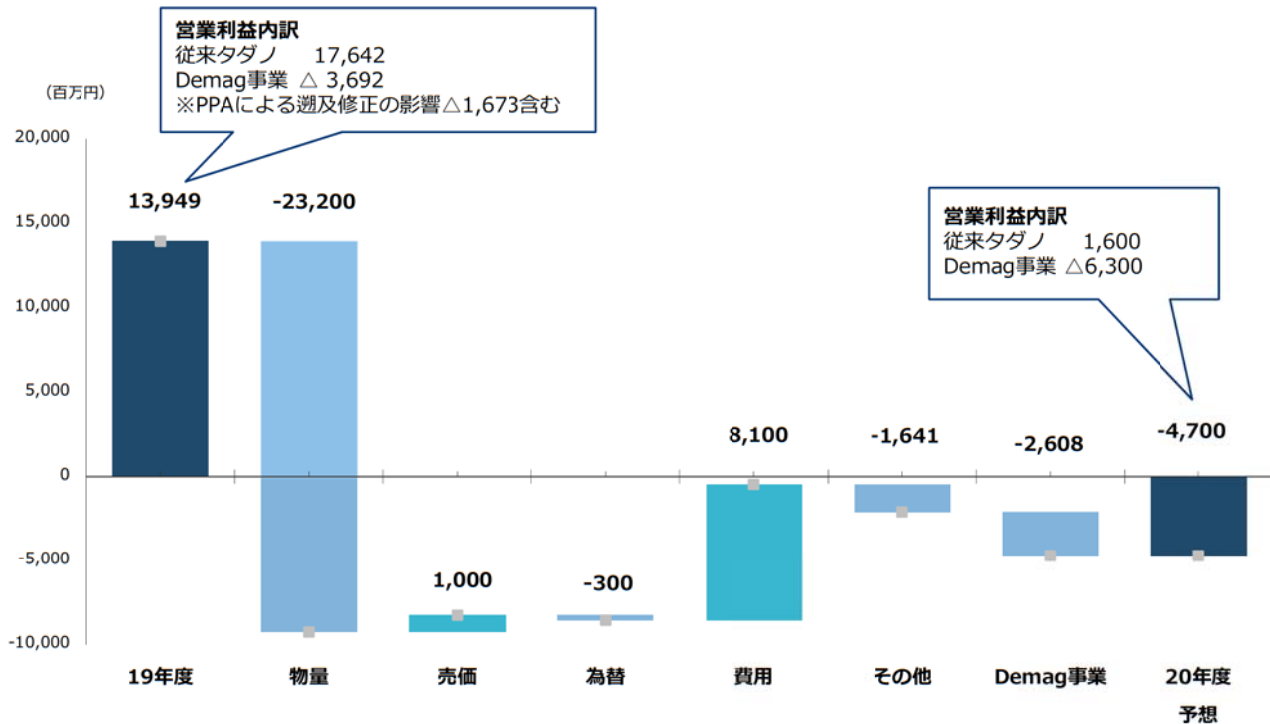
28

2020年度業績予想

(単位：百万円)

	19年度		20年度		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	227,949	100%	182,000	100%	-20.2%
営業利益	13,949	6.1%	-4,700	-2.6%	-
経常利益	13,791	6.1%	-6,200	-3.4%	-
親会社株主当期純利益	6,433	2.8%	-7,900	-4.3%	-
設備投資額		12,902		5,500	
減価償却費		4,527		4,800	
※設備投資にはリース資産分を含んでおります。					
USD		109.05円	下期	105.00円	
EUR		122.07円	下期	125.00円	
1株当たり配当金		中間 14.00円	中間	0.00円	
		期末 14.00円	期末	3.00円	
		年間 28.00円	年間	3.00円	

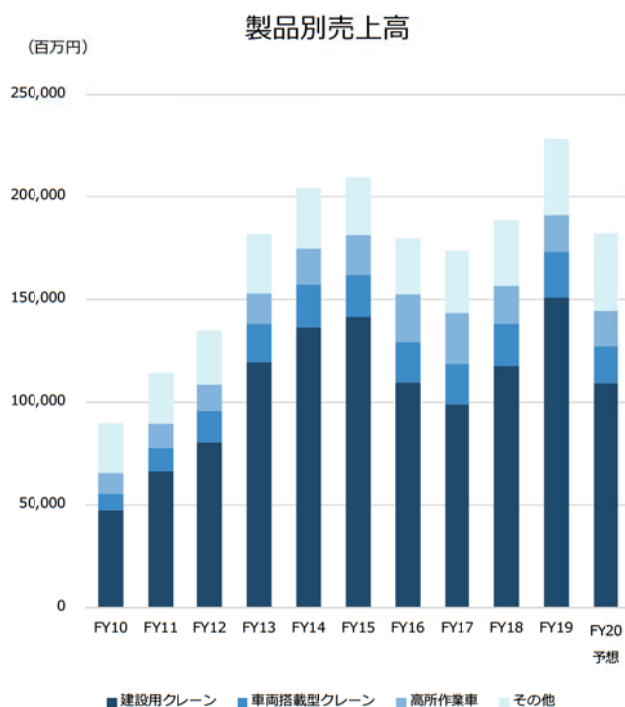
29



2020年度製品別売上高予想

(単位: 百万円)

	19年度	20年度 予想	比較増減	
			金額	増減率
建設用クレーン	150,818	109,300	-41,518	-27.5%
車両搭載型クレーン	22,162	17,800	-4,362	-19.7%
高所作業車	17,986	17,300	-686	-3.8%
その他	36,982	37,600	618	1.7%
合計	227,949	182,000	-45,949	-20.2%
建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高				
日本	47,833	37,800	-10,033	-21.0%
海外	102,984	71,500	-31,484	-30.6%
合計	150,818	109,300	-41,518	-27.5%



世界に、そして未来に誇れる企業を目指して

Pursuing Further Excellence
for the World and the Future.